

<p>余白 20mm</p> <p>急性期 A 病院での人工呼吸器を装着児のレスパイト入院の取り組み</p> <p>↑ 1 行あける ↓</p> <p>愛知へいせい病院 ○学会太郎・高辻行代</p> <p>10 行分あける</p>	<p>演題 (12ポイント MS 明朝体)</p> <p>副題 (12ポイント MS 明朝体)</p>	<p>施設名 (10ポイント MS 明朝体)</p> <p>氏名 (10ポイント MS 明朝体)</p> <p>発表者の前に○をつける</p>
<p>I はじめに なぜこのテーマの実践、症例を報告しようと思ったのかという動機と、実践報告／事例報告の意義を分かりやすく記述する。 <注意点> クリニカルクエスチョン、リサーチクエスチョンについて記述する。 臨床現場で実際に起こった事象などを記述し、先行文献ではそのような調査、実践報告がされているかを記載する。 この実践報告／事例報告をしようと思った動機を記述する（研究ではないので、新奇性は必ずしも必要ない）。 この報告をすることでのメリット（意義）を記述する。</p> <p style="text-align: center;">24 字×40 行</p> <p>II 目的 この実践／症例報告をすることで、どんな意義があり、どんな課題を明らかにしようとしているのかを記述する。動機はここに不要である。 例) 急性期 A 病院で取り組んだ人工呼吸器を装着した子どものレスパイト入院 1 例を振り返り、今後の課題を明らかにする。</p> <p>III 用語の定義 実践／症例報告のなかで重要な用語は定義をする。無い場合は、記述しなくてもよい。記述しない場合は、以下「III 実践内容」とする。</p>	<p>IV 実践内容 実践した期間、実践した内容、症例に関して記載をする。実践内容の項目に関しては、報告する内容に応じて臨機応変に対応する。</p> <p>実践内容としての書く項目の例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実践期間 2 症例紹介 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者と家族 2) 入院までの経過 3) 病棟の看護体制 3 アセスメントと病棟での取り組み <p>V 倫理的配慮 どのような倫理的配慮をしたのかについて簡潔に記述する。症例報告の場合、名前や疾患名を伏せても患者および家族が特定されやすいため、注意する。報告に関して必要な部分は詳細に記載し、他の部分は事例が分からないように簡潔に記載する。所属施設の倫理委員会などの承認を得ている場合は承認番号も記載する(倫理的配慮については別紙参照)。</p> <p>VI 結果 臨床で実践して得た結果を簡潔に示す。 <注意点> ①記述スペースが限られているため、考察に必要なデータのみ記述する。 ②図表を用いて、分かりやすく記述すると良い。 ③結果は見出しや項立てをして記載すると良い。 例) 実践の結果 3 つの段階を経てレスパイト入院は実施された</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 混乱の段階 2 手さぐりの段階 	
<p>余白 15mm</p> <p>余白 20mm</p>	<p>余白 10mm</p> <p>余白 15mm</p>	

2 枚目

余白 20mm

24 字 × 50 行

24 字 × 50 行

余白 15mm

余白 10mm

余白 15mm

余白 20mm

VII 考察
＜注意点＞
①結果で記述されたことに対して考察を行う。結果に記載されていないことは考察で記述できない。
②得られた結果を、先行文献の結果や既存の理論などと比較して考察をする。同様の結果が出ている理由、違う結果が出ている理由などを考察し、何がこの実践／事例報告のオリジナリティなのかを記述する。
③結果の羅列はしない。

VIII 結論
＜注意点＞
①実践／症例報告の目的から明らかになったことを簡潔に書く。
②今後の課題を簡潔に書く。
＜1行あける＞
利益相反について記載する。
＜1行あける＞
文献
1)

＜その他、留意していただきたい事項＞
①主語、目的語が抜けないように、5W1H に留意して記載する。
②ひとつの段落には、同一の内容を記述する。文頭と文末の内容がずれていない。
③意味が同じ単語は統一した単語を使用する。
（例：ナース・スタッフ・看護師→看護師）
④平易な言葉を使用し、誰もが内容を理解できるように心がける。
⑤提出前には再度全体の確認を行い、誤字・脱字、内容の重複がないか、要領に沿った記述（半角・全角、番号ふり、フォントなど）ができていないか、文章は読みやすいかなどチェックを行い提出する。